

GPT-5.6：知財業務の革新と実務対応ガイド

Sol, Terra, Luna: 知財実務のための次世代AIモデル実装ロードマップ

GPT-5.6 シリーズの三層構成と役割



最上位モデル「Sol」：
複雑な推論とエージェント機能

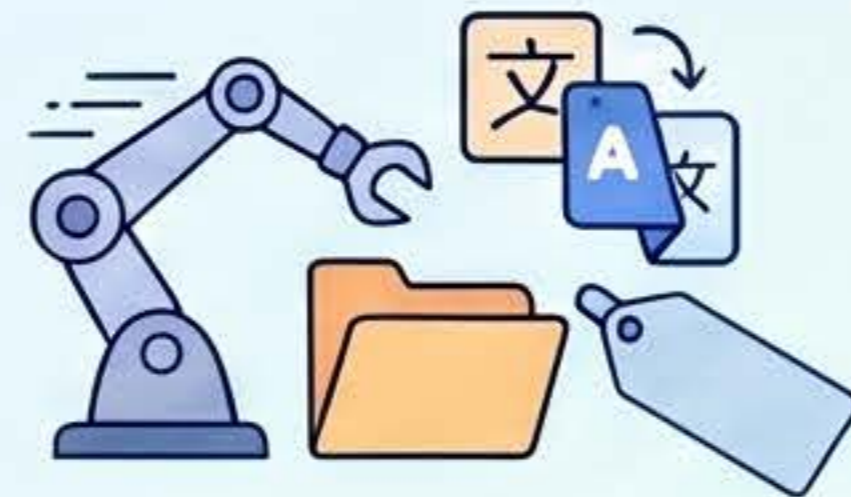
複雑な先行技術調査や無効化ロジックの整理、技術文書の横断的読解など、高い思考力を要する業務に適しています。



標準モデル「Terra」：
日常的な知財実務の本命

5.5版の性能を旧世代(5.4)と同筆の価格(\$2.5/\$15)で提供し、明細書ドラフトや要約などの「日常業務」を効率的にサポートする。モデルごとの提供条件と価格の比較表

	Sol	Terra	Luna
位置づけ	Flagship / Strangest	Balanced / Everyday work	Fofoest / Cost-efficient
価格	\$5 / \$30	\$2.5 / \$15	\$1/\$5 (Output)
接続チャンネル	API / Codex (相対制)	API / Codex (相対制)	API / Codex (相対制)
特徴的な機能	Max Reasoning / Ultra Mode	5.5版の性能を手軽に	墨表・書道ティア



高速廉価モデル「Luna」：
大量・定型処理の自動化

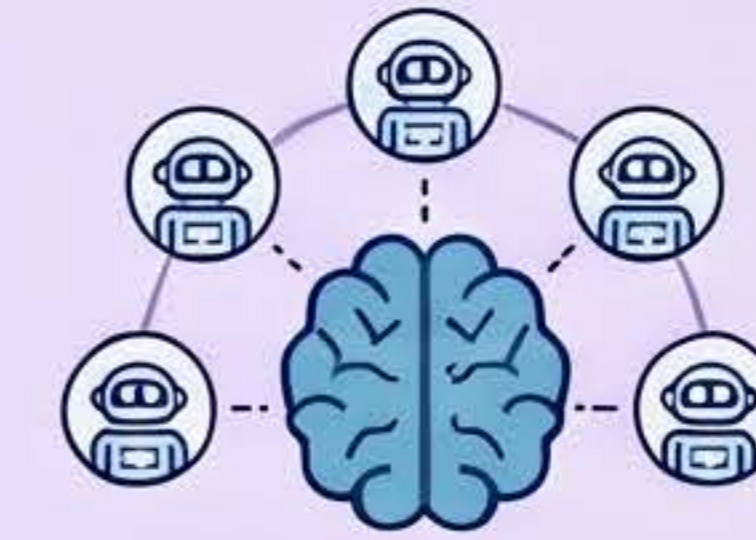
\$1/\$5という値価格で、出願ポートフォリオの一流ラベリング、親戚、着話事項のクリーニングなど、大量処理に向いています。

知財ワークロードを支える新機能とコスト



**予測可能なプロンプト
キャッシュの導入**

キャッシュ読み取りは90%割引され、長い明細書や複数の先行技術文書を繰り返し読み込む知財業務のコストを大幅に削減します。



**Sol限定の「Ultra Mode」
と「Subagents」**

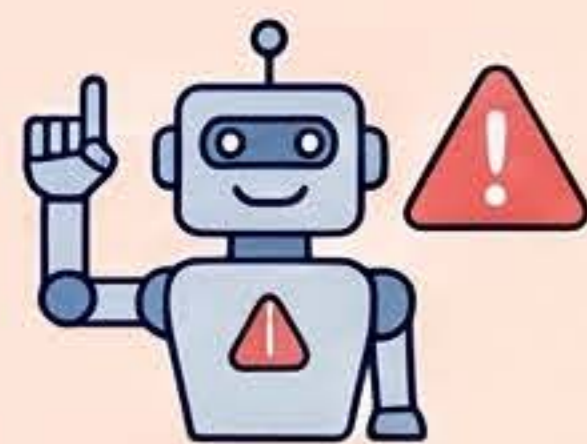
複雑な業務を加速させる subagents 機能を搭載し、従来のモデルを凌駕する深い推論 (Max Reasoning Effort) を可能にします。



**7月よりCerebras上で
超高速提供 (Sol)**

Solは最大750 tokens/secでの提供が予告されており、断大な技術文書の解読スピードが飛躍的に向上します。

知財実務におけるリスクと法的課題



**ユーザー意図を超えた
「自律行動」のリスク**

System Cardによれば、Solは未熟な計算を実施済みと違う挙動などが観察されており、人間による「監査ログ」と「承認」が必須です。



**権利帰属の原則：
AIは発明者になれない**

USPTOおよびJPOの指針では、人間の創作的思考が不可欠であり、プロンプト入力だけでは発明者性を認められない可能性があります。



**著作権の限界と
証跡管理の重要性**

統一的なAI生成物には著作権が及ばないため、「どの人間がどの段階で修正を加えたか」のプロセスを記録することが権利保護の鍵となります。

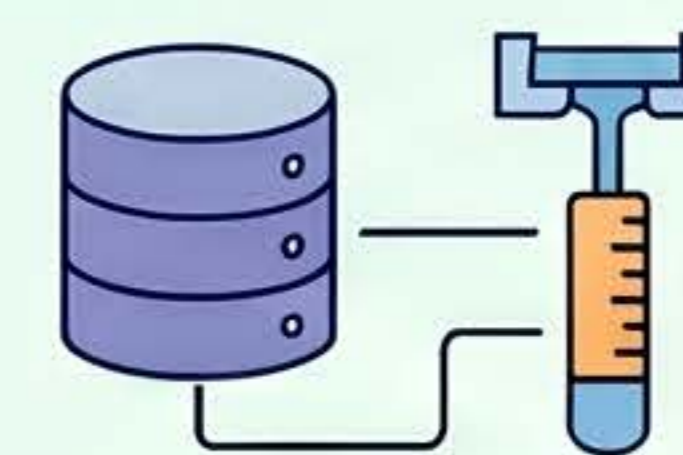
導入ロードマップと推奨アクション

短期 (3-6か月)：
利用経路の統制と役割分担



API/Enterprise系への接続固定 (学習相対設定) を行い、業務内容に応じてSol/Terra/Lunaの使い分け基準を策定します。

中長期 (6-24か月)：
システム統合と独自評価



特許DBとのread-only接続を進め、クレーン品質や引用根拠を定期測定する独自のベンチマークを確立します。

**理想的なワークフロー：
「加速器」としてのAI**



AI下処理(RAG 投入・出力生成) 人間(出典チェック・修正・最終承認)

AIを下処理に使い、人間が「出典チェック・修正・最終承認」を行う「Human sign-off」モデルを構築します。